

## 子ども支援学専攻が目指す人材育成

子ども支援学専攻主任 教授 小林英義

生活支援学科 (Department of Human Care and Support) は、2009 年 4 月から「生活支援学専攻 (Human Care and Support Course)」と「子ども支援学専攻 (Social Work and Child Care Course)」の 2 専攻体制となり、2012 年度に 4 年目を迎えました。

「子どもの笑顔と幸せな育ちを守ること」、これはいつの時代においても、大人たちに託されている大切な課題です。とりわけ、東日本大震災による大きな災害や事故を体験した今、私たちはわが国の子どもたちの幸せを守ることを真剣に考え、行動していかなければなりません。

子ども支援学専攻では、直面するそのような社会的課題に、保育・幼児教育の視点から、どう取り組んでいくのかを学び、その実践力を高めます。そのため保育、教育、福祉に関する専門知識をはじめ、子どもの心のケアや子育て家庭への支援など、子どものソーシャルワーカー (Social Worker) としての援助方法を習得します。

しかし、何よりも大切なのは、技術や国家資格取得にとどまるのではなく、幅広い教養や豊かな人間性を備えた質の高い専門能力を身に付けていくことだと思います。子どもの心を理解し、大人と信頼を持って向き合い、地域社会から求められる課題を積極的に解決できる「子ども支援」の人材を育成したいと思います。



### 小林英義自己紹介

学生時代の住み込みボランティアをきっかけに学部卒業後は埼玉県内の児童福祉施設の職員として 20 数年間勤務。その後、大学院で勉強する機会を得て、大学教員として社会福祉士や保育士養成に当たり、2009 年から本学に赴任。学生の皆さん、福祉や保育を志すときに感じた、「くすぐられた感性」を大切に学んでください。

■ 右の画像は著書『寮通信「子どもの目」——少年・少女たちの生活記録。教護院から児童自立支援施設——』（2008 年、三学出版刊）。

